



浦幌十勝導水路

大 正

昭 和

浦幌十勝川の河川機能の再生

昭和38年9月に浦幌十勝川を締め切った後、浦幌町の愛牛・豊北地区では洪水を減らすことに成功しました。

しかし、河川流量が低下したため、土砂が流れにくくなり、河床には土砂堆積がみられるようになりました。河口部では海砂が堆積し、川の水が海に流れ出さない「河口閉塞」が昭和46年1月に発生。川の水位が高くなったことで農耕地の湿地化、十勝太市街の地下水上昇による生活環境の悪化などの被害が起きるようになりました。

このため浦幌町では地元（6行政区）とともに浦幌十勝川改修工事促進期成会を結成して問題の早期解決に向けて運動を開始しました。昭和50年には浦幌十勝川導水路計画が策定され、工事に着手。



浦幌十勝川の河川機能を再生させるため、次の **完成当時の浦幌十勝導水路**

ことが検討されました。（1）河口閉塞を防止する流量、（2）十勝川から導水する流量、（3）導水地点、（4）サケ遡上への影響について大津漁業協同組合との協議。

主な工事としては、導水路関連で水路掘削、護岸のほか、水門2カ所（呑口導水門及び吐口締切門）、附帯工事として橋梁2橋がありました。また、整備を要する関連事業として、下頃辺川、浦幌十勝川の掘削、護岸、水制も実施されました。

全体事業費は約68億円からスタートしましたが、最終的には90億円となり、8年の歳月を経て、昭和57年に完成しました。

過去の締切によって切り離されていた十勝川と浦幌十勝川でしたが、下頃辺川を通じてふたたびつながったのです。



浦幌十勝導水路 全景

記念碑



浦幌十勝導水路記念碑

碑 文

昭和三十八年九月浦幌十勝川（十勝太河口側）の洪水防止を目的としトイトツキ地点に締切堤を築造して浦幌十勝川への分流を阻止した。

以来洪水は解消され飛躍的な営農の安定と拡大が図られたが、流量の減少による滞流と土砂の堆積及び河口の閉そくにより水位が上昇し流域一帯の内水排除が困難となって、農地の効果的活用の支障となるなどの問題が発生した。

このため関係住民の悲願により昭和四十六年期成会を結成、浦幌十勝川への導水を国に強力に要請、関係各位の特段なる配慮により昭和四十七年これが浦幌十勝導水路工事として採択となり約九十億円余の巨費を投入して工事の完成をみるに至った。

この偉業を記念し、なお一層の地域の発展を願いこの碑を建立する。

昭和五十七年六月

浦幌十勝川改修工事促進期成会 建立

平 成

令 和

100年